

ー 目標Ⅱ. 既存施設の有効活用に向けた技術開発 ー

●港湾施設の既存ストックの活用

5. 航路等の埋没対策手法技術の開発

～ 各港の地域性を考慮した効果的な埋没対策手法の検討 ～

■開発の背景

沿岸漂砂の影響や航路筋に河川がある場合、航路が埋没して必要水深が確保できなくなることから、維持浚渫を行っています。

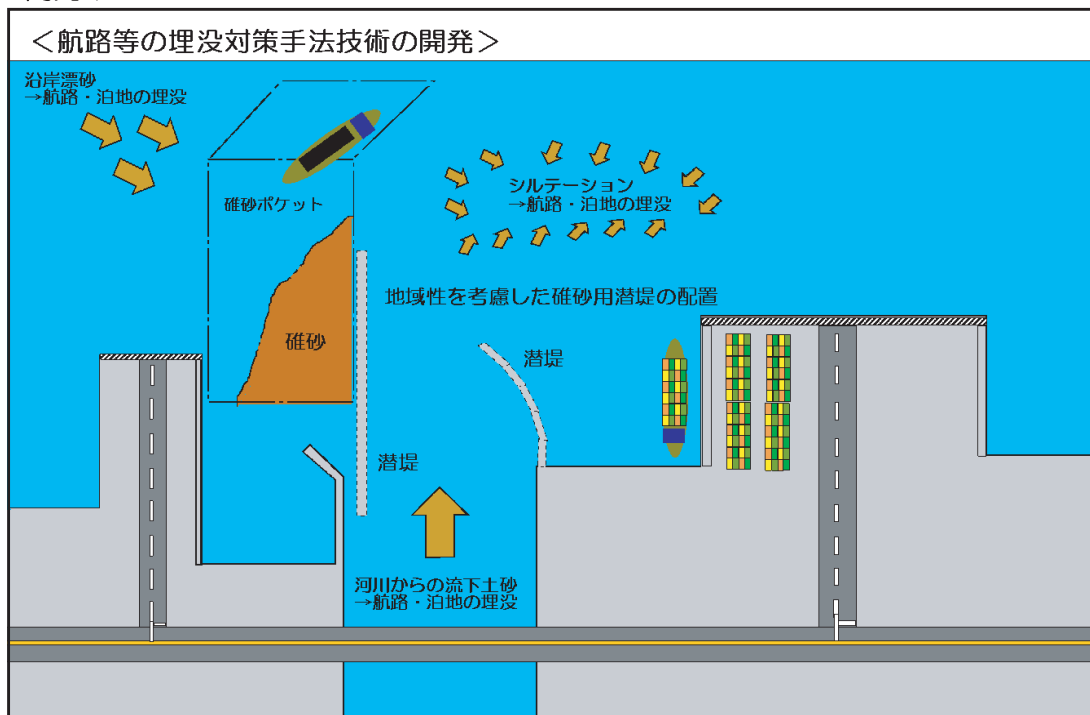
その際、航路の機能回復から、基本的に必要水深までしか浚渫を行いませんが、浚渫費用と時間がかかり、苦慮している現状にあります。

そこで、各港の地域性による航路埋没の特性を把握し、沿岸漂砂の影響及び河川からの流下土砂や、シルテーションについての基礎的な性質を明らかにした場合、維持管理費用の縮減を図れる可能性があります。

■開発の目的

沿岸漂砂及び河川からの流下土砂やシルテーションによる埋没対策

■開発イメージ



■開発の目標

東北管内の各港における効果的な航路埋没対策手法、維持管理費用のコスト縮減

■開発項目

- 各港の航路埋没特性の把握（地域特性）
- 沿岸漂砂及び河川の流下土砂やシルテーションの基礎的な性質の把握
- 航路埋没対策手法の検討
- 航路埋没対策工の施設設計
- 対策手引き書の整備（碇砂ポケット、潜堤の設計手法等）